

BREAK interview

Vol.08



「バレエを始めたきっかけは何ですか？」
小さい頃からとにかく身体を動かすことが好きだったので、母がバレエをやつたらこうかつて勧めてきたんです。仲の良い友達もちよつとバレエを始めた頃で、「一緒にやらない?」って誘われてもいたんですね。それで教室を見学に行つたのをきっかけにすっかりやる気になつてしましました(笑)。

「これまでのバレエ人生で最も思い出に残っている経験」と辛かった経験は?

思い出に残っていることは本当にたくさんあるんですけど、プロになってからという意味では、初めてバレエ団で全幕の主役をいただいて演じた舞台です。バレエ団の初演の作品ということもあって、海外から指導者を招いてのリハーサルだったんですが、踊りだけでなくお芝居もとても貴重な作品で、演技に慣れていない私にとっては本当に学ぶことの多い充実した日々でした。辛かったことは…本番だからその判断がとても辛い、難しいですね。

近くにケガをしたり体調を崩したりしたときですね。出来ただけ気をつけてはいるんですけど、やはり生身の身体なのでどうしてもケガはつきものです。ただ、観ているお客様には「こちらのコンディションがどうかなんて関係ありませんから、どんなに調子が悪くてもそれを舞台で見せてはいけないし…。またそんな状態で無理して出演して良くないものを見せることになるならば、キャンセルした方がいいこともあります。自分一人のために舞台を空無しにするにはできませんから。

「アメリカへ1年間バレエ留学を経験されていますが、留学中に感じた日本とのバレエ環境の違いはありますか? 海外はとにかく公演回数が多く、私がいたカンパニーはだいたい1週間から長いときは1ヶ月も公演が続きます。それは公演回数の少ない日本ではなかなかできない経験でした。それに海外ではダンサーが仕事をとして成り立つているので踊ることだけに集中できます。だけど日本では、ほとんどのダンサーが踊ること以外に教えることや他のことをしなければならないのが現実。それでも、舞台ではお客様にベストのものをお見せするというプロ意識は日本でも海外でも変わりません。

「今後の夢や目標は?」

現役のバレエダンサーとして第一線で踊れる期間は決して長くはないので、その限られた時間の中で出来るだけ多くの舞台や役柄を経験したいと思っています。これからどれだけのチャンスがあるの

峰岸千晶
1981年10月22日生まれ。秩父市出身。6歳よりクボバレエアカデミーにてバレエを始める。2000年、米国コロラドバレエ団にて1年間研修をし、数多くの舞台に出演。2001年の帰国後、現在のNBAバレエ団に入団し、トップダンサーとして日々活躍する。

Ballet! バレエを見に行こう!

NBAバレエ団は所沢市や都内各地で、1年を通して定期的に公演を行っています。まだバレエを見たことのない方も、この機会に見に行ってみてはいかが?

峰岸さんも12/8の公演にご出演予定!

●9月15日(日)「NBAバレエ団アトリエ公演」

会場:なかのZERO 大ホール

●10月5日(土)・6日(日)「NBAバレエ団所沢公演」

会場:所沢市立中央公民館

●12月8日(日)「くるみ割り人形 全幕」

会場:所沢市民文化センター ミューズ

バレエ団のくわしい情報や公演情報の詳細はこちらからご覧ください→<http://www.nbaballet.org/>

ARで峰岸さんの舞台での様子が見られます!
ARの使い方についてはp.37

与えられたチャンスは
すべてものにしたい

バレリーナ／峰岸千晶さん

今回は、所沢にあるNBAバレエ団でトップバレリーナとしてご活躍中の峰岸千晶さんにインタビューしました。

Chiaki Minegishi

いつも何足ものトウシューズを持ち運ぶ峰岸さん。演目の踊りの特徴に合わせ、それぞれ異なる形状の異なるシューズを使い分けているのだそう。



かはわからないけれど、与えられたものには可能な限りチャレンジしていきたいです。引退後のことば美はまだあまり考えていないで(笑)。小さな子どもから大人の方までバレエを教えていますが、いつも楽しそうに生き生きビレッジをしている姿にこちらも元気をもらっています。その生徒たちのためにも、バレエの素晴らしさを出来る限り伝えていきたいとは思うので、教えていたいです。でも主役を踊るようになってからは役を演じることが増えたせいか、どう踊ろうかではなく、あまり気負わずに音楽に乗つて楽しく踊ろう、演じる」とを楽しもうと思つようになりました。その方が余計な力が入らず伸び伸びと踊れるし、観ている方にも自然に楽しんでいただけます。肩に力の入った踊りでは、お客様まで疲れてしましますから。

以前は、舞台で大きく見る「踊る」とか、失敗しないようにとか、とにかく上手く踊れる」とを意識していたんですけど、でも主役を踊るようになってからは役を演じることが増えたせいか、どう踊ろうかではなく、あまり気負わずに音楽に乗つて楽しく踊ろう、演じる」とを楽しもうと思つようになりました。その方が余計な力が入らず伸び伸びと踊れるし、観ている方にも自然に楽しんでいただけます。肩に力の入った踊りでは、お客様まで疲れてしましますから。